

日本大学工学部校友会

# 校友会報

## LOHASな工学部 Lifestyles Of Health And Sustainability

健康で持続可能な社会を志向するライフスタイルの意味

第72号 平成21年3月1日



### INDEX

- ごあいさつ .....2
- 平成20年度第51回通常総会報告 .....3
- 第28回「母校を訪ねる会」を開催 .....4
- 平成20年度「母校を訪ねる会」「同級会」.....7
- クラブOB・OG会報告 .....12
- 支部活動報告 .....14
- 校友レポート .....18
- がんばり記 .....19
- 活躍する校友 ..... 20
- 学内NEWS .....21
- 就職指導への取組 .....22
- 記念誌の概要・寄付者名簿 .....23
- 通常総会・母校を訪ねる会の案内 .....24



日本大学工学部長  
**出村 克宣**

平成21年の早春を迎えられ、校友の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年の校友会報でご紹介いただきましたとおり、平成20年4月より学部長職を拝命し、無事、新しい年度を迎えようとしております。これも皆様からの日本大学並びに、日本大学工学部の教育・研究活動に対するご理解とご支援の賜物であります。また昨年度は、クラブ活動などに使用する新しいバスの購入並びに新教室棟に対して、多額のご寄附をいただきました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年はいくつかの校友会支部を訪問する機会、また、北桜祭開催時には母校を訪ねる会で多くの校友の皆様にお会いする機会を得ました。その時、工学部校友が各地、各界でお元気に活躍しているということを感じ、私も教職員もそのパワーをいただきながら教育・研究活動に邁進したいと考える所存です。

また、日本大学工学部は平成19年度に創立60周年を迎え、平成20年度の時点で学部卒業生約4万5千人、大学院修了者約2千人に達しました。一方、日本大学は本年創立120周年を向かえ、校友が100万人に達します。非常にラフな表現をすれば、日本人の百人に一人が校友であるということになります。歴史は時の流れの積み重ねであり、独自に築き上げられた歴史だけは、他のいかなるものもまねることはできません。その間培われてきた工学部の歴史と伝統を今後とも継承し、更に新しい歴史を刻んでいきたいと考えております。そして、そのことは、校友の皆様が築きあげてきた歴史と伝統があってこそと感謝いたしております。

以上のようなことに鑑み、日本大学工学部校友会とのますますの連携こそが、工学部で学び、校友となって巣立つ学生にとって大変力強い支えになると考えております。

最後になりますが、校友の皆様からの変わらぬご指導、ご支援をお願いすると共に、皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。



校友会会長  
**手塚 公敏**

日本大学工学部校友会の皆様には、新しい年を迎え、いかがお過ごしでしょうか？ 昨年4月の総会にて第13代会長に就任させていただきました手塚です。

前会長の加藤木氏のように、立派に会長職を務め上げられるか不安ではありますが、精一杯務めさせていただきます。皆様のご支援を何卒宜しく願いいたします。

初めての方もいらっしゃるかと思いますので、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は栃木県出身で、土木科16回卒、昭和39年の入学です。その当時、大学にはまだ兵舎が残っており、食堂やクラブの部室、講堂も兵舎でした。その講堂でオリエンテーションや校歌の指導を受けたことを今もはっきりと覚えております。在学中は合気道部に所属し、現在、合気道部のOB会長も務めさせていただいております。

校友会では、平成2年に役員、平成11年に副会長を任じられ、現在に至っております。

さて、我が工学部校友会は、平成20年で設立50周年の節目を迎えました。そこで「工学部校友会設立50周年記念誌」発行のため、「編纂委員会」を立ち上げました。来年度の発行に向けて鋭意、作業を続けておりますので皆様、楽しみにお待ちください。

また、学生の就職サポートのため「就職支援特別委員会」を大学と協力して立ち上げました。折しも昨秋からの世界同時不況で、学生の就職は近年には考えられなかった大変な状況になっております。ぜひ校友の皆様のご協力をお願いいたしたく存じます。

さらに「ホームページ委員会」を立ち上げ、ホームページをリニューアルして参りますので、ぜひ一度アクセスしてご高覧いただければ幸いです。

他にもさまざまな活動を続けてまいります。今後とも校友会は、大学と協力し、大学や校友会の益々の発展に、これまで以上の役割を果たすべく頑張りたいと思います。校友会の皆様、なお一層のご協力ご支援をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。





# 平成20年度 第51回通常総会報告



平成20年4月19日(土)、午後1時より第51回目となる日本大学工学部校友会通常総会が開催された。

加藤木研会長(電12)による開会の辞が述べられ、総会出席者から議長に小山田克己氏(土5)、議事録署名人に深野一男氏(土20)、蔭山寿一氏(建28)、書記に相原茂氏(土24)、田村賢一氏(機30)がそれぞれ選出され、議事にはいった。

鈴木守総務委員長(電16)から「平成19年度会務報告」、水上崇財務委員長(建22)から「平成19年度一般会計・特別会計収支決算」がそれぞれ報告され、渡邊信一会計監査(土21)から監査報告がなされた。さらに両委員長より「平成20年度事業計画」および「平成20年度一般会計・特別会計収支予算」が提案され、各々に質疑討論の後、賛成多数で承認された。

また、本年度は役員改選の年にあたり、議案第5号として提案された新役員案について討議が行われ、手塚公敏新会長(土16)をはじめとした新役員が誕生した。その後、各支部長による支部活動、近況の報告がなされ、閉会となる。

総会終了後、恒例の懇親会を開催した。来賓に小島勝衛総長をはじめとする本部関係者、出村克宣工学部長をはじめとする工学部関係者さらに他学部校友会長・代表者の方々をお迎えした盛大な懇親会となった。



## 平成19年度一般会計収支決算書

款項	種目	予算額	決算額	比較増減 (予算額-決算額)	付記
会費	1.会員通信費	100,000	455,000	355,000	
	2.入会金	32,900,000	33,173,000	273,000	
	計	33,000,000	33,628,000	628,000	
繰越金	3.前年度繰越金	6,255,434	6,255,434	0	
	計	6,255,434	6,255,434	0	
交付金	4.校友会正会員交付金	90,000	100,800	10,800	
	計	90,000	100,800	10,800	
雑入	5.預金利子	10,000	68,941	58,941	
	6.名簿代金	0	0	0	
	7.雑収入	0	400,000	400,000	
	計	10,000	468,941	458,941	
合計		39,355,434	40,453,175	1,097,741	

款項	種目	予算額	予算現額	決算額	比較増減 (予算額-決算額)	付記
事務費	1.給料手当	6,200,000	6,206,407	6,206,407	0	種目29から ¥6,047
	2.法定福利費	740,000	845,688	845,688	0	種目29から ¥105,688
	3.福利厚生費	50,000	50,000	13,217	△36,783	
	4.事務局旅費交通費	200,000	200,000	153,580	△46,420	
	5.事務用品費	250,000	250,000	219,051	△30,949	
	6.備品費	280,000	280,000	82,063	△197,937	
	7.図書印刷費	180,000	180,000	110,815	△69,185	
	8.通信運搬費	450,000	450,000	361,441	△88,559	
	9.修繕維持費	50,000	104,055	104,055	0	種目29から ¥54,055
	10.分担金	670,000	670,000	670,000	0	
	11.電算維持管理費	250,000	250,000	151,200	△98,800	
	12.支払手数料	50,000	50,000	32,695	△17,305	
	13.雑費	100,000	100,000	8,500	△91,500	
	計	9,470,000	9,636,150	8,958,712	△677,438	
事業費	14.組織対策費	3,000,000	3,000,000	2,935,220	△64,780	
	15.交際費	1,100,000	1,264,850	1,264,850	0	種目29から ¥164,850
	16.広報費	5,500,000	5,500,000	4,892,435	△607,565	
	17.会員名簿管理費	850,000	850,000	456,918	△393,082	
	18.式典費	4,400,000	4,400,000	3,608,701	△791,299	
	19.母校訪問費	550,000	550,000	496,586	△53,414	
	20.負担補助助費	5,400,000	5,400,000	5,400,000	0	
	21.新規事業費	2,000,000	2,000,000	908,280	△1,091,720	
	計	22,800,000	22,964,850	19,962,990	△3,001,860	
会議費	22.総会費	950,000	950,000	765,151	△184,849	
	23.役員会費	300,000	300,000	276,977	△23,023	
	24.連絡協議会費	550,000	550,000	508,250	△41,750	
	25.旅費	3,300,000	3,502,680	3,502,680	0	種目29から ¥202,680
	計	5,100,000	5,302,680	5,053,058	△249,622	
繰出金	26.職員退職給付積立 金特別会計繰出金	100,000	100,000	100,000	0	
	27.学生支援基金特別 会計繰出金	0	0	0	0	
	28.就学支援基金特別 会計繰出金	100,000	100,000	100,000	0	
	計	200,000	200,000	200,000	0	
予備費	予備費	1,785,434	1,251,754	0	△1,251,754	種目1291525 ¥533,680
	計	1,785,434	1,251,754	0	△1,251,754	
合計		39,355,434	39,355,434	34,174,760	△5,180,674	

歳入額 40,453,175円

歳出額 34,174,760円

差引残額 6,278,415円を翌年度へ繰り越しとする。



## 「母校を訪ねる会」第28回を開催



平成20年10月26日(日)、第28回目となる「母校を訪ねる会」が開催されました。

今回の対象学年は第二工学部6回卒、工学部16・26・36回卒。参加人数は196名で例年と比べると若干少ないものの、会場では旧友との再会を喜び、在学中の思い出を語り合うなど活気あふれる会となりました。

懇親会は出村克宣工学部長・手塚公敏校友会長の挨拶に始まり、佐久間秀治事務局長の乾杯で懇談に入りました。懇談の途中で校友代表の佐藤吉新氏(土6)と桃原隆氏(建6)のおふたりに在学中の思い出を交えたご挨拶をいただき、應援團の演舞、小野沢元久前学部長による万歳三唱を経て閉会となりました。

また、今年度も懇親会の場をお借りして、校友会から工学部への援助「新教室棟建設寄付金(500万円)」・「工学部バス購入資金援助金(300万円)」の目録授与をさせていただきました。これらが少しでも学生の支援に繋がるように願っております。

この度、参加された皆様のなかにはキャンパスの

変貌振りに驚かれた方もいらっしゃると思います。キャンパスには新教室棟70号館をはじめ設備の充実した校舎が建ち並ぶようになりました。昔のキャンパス風景ましてや木造校舎が立ち並んでいたころの面影を探すのは難しいでしょう。また、当日行われた北桜祭も大分様変わりしたと感じた方もいらっしゃるのではないでしょうか。

そんな変わりゆく母校をこの目で実際にご覧になられた感想はいかがでしたでしょうか。寂しく感じられる方もいらっしゃるでしょうし、頼もしく感じられる方もいらっしゃるでしょう。変わりゆくキャンパスだけでなく、学生と接することで学生気質の変化にとまどいを感じた方もいらしたかもしれません。

「母校を訪ねる会」に参加することによって、変貌していく工学部を肌で感じる事が出来るのも楽しみのひとつかと思われまます。

次回以降の「母校を訪ねる会」にも多くの方のご参加をお待ち申し上げます。



第28回 母校を訪ねる会(第6回・昭和32年度卒、第36回・昭和62年度卒) 平成20年10月26日



第28回 母校を訪ねる会(第16回・昭和42年度卒) 平成20年10月26日



第28回 母校を訪ねる会(第26回・昭和52年度卒) 平成20年10月26日



## 校友茶会の開催



今年度も母校を訪ねる会とともに、校友茶会を開催しました。母校を訪ねる会の対象者の皆様はもちろんのこと、北桜祭を見に来られたお客様そして学生の皆様にお茶を飲みつつ憩いのひとときをお過ごしいただく、そのような場をご提供することが出来たと思っております。

今年はより多くの方々にお茶を飲んでいただくよう開始時間を30分ほど早くし、席の数も増やしました。その成果があったのか、昨年度より多くの皆様にお茶を振る舞うことが出来ました。

またご来場の皆様も普段接することのないお茶の席に興味を湧いたせいか、じっくり堪能していかれる方もいらっしゃいました。

昨年度、今年度と好評を得たのでこれからも続けていくつもりでおります。次回以降、母校を訪ねる会などでお越しいただく皆様、決して堅苦しいものではありません。お気軽にお立ち寄り下さい。

また、茶道スタッフの皆様、茶道部OB田中敏夫様には大変お世話になりました。ありがとうございました。





## 謝 辞

土木6回卒 佐藤 吉新

この度、工学部及び工学部校友会が開催する平成20年度「母校を訪ねる会」の招待を賜り、有難く御礼申し上げます。

参加校友代表としての挨拶との指名を受けましたので、第6回卒業生の皆様を代表して、土木工学科33年度卒業致しました、佐藤が挨拶をさせていただきます。

私が日本大学工学部に入学した当時と、現在このキャンパスとでは、先ず第一に、施設整備充実の高度な変化は想像を絶するものがあります。私共が入学した当時は、全校舎ともに戦争の爪跡がまだ残る木造2階建の校舎でした。そして、卒業する昭和33年度によく鉄筋コンクリート校舎が一棟出来上がり、そこで授業を受けたような次第でした。当時の諸先生方も、それぞれ木造の粗末な研究室等から講義にいられていました。

当時の先生としては、一般教養部門で小林巖先生、広川先生、西本先生、岡部先生など、専門課程では木村先生、杉内先生、新田先生、加藤先生等、諸先生の面影が懐かしく遠い思い出として浮かんで参ります。

私共は、現在73歳を過ぎ、後期高齢者の仲間入りの年齢となりました。仕事上の経歴では、公共、民間を問わず、その大部分の仲間が、社会の第一線での活躍を終えて、自由自在の生活を送っている諸氏が大多数のようです。

現在の社会的、経済的状況は、過去に私共が経験、想像だにできなかった、原油・鉄鉱石等に代表される地下資源且つ又食料原材料等の価格高騰による世界的経済のグローバル化の波及により、我が国の製品価格高騰に伴う諸外国との経済格差により、日本国産業の根本的改革が求められている時代、更に加えて本年8月に経験したような異常気象による集中豪雨等によるイ



ンフラ等の根本的対策等は、当然大学に於いても学問研究開発の分野での果たす役割は急変貌しなければならない使命があると思われませんが、理想と現実を追求する本学の理念を基として、当学部が限りなき発展進化していけます事を吾等一同祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

## 「母校を訪ねる会」と同期生の会

土木6回卒 横溝 秀雄

昭和33年卒業以来、50年の歳月が流れてこのたび、平成20年度母校を訪ねる会への招待状をいただきました。

私達土木6回卒の同期生では、佐藤吉新氏を会長とする「アカシヤ工友会」を組織して2年ごとに、例会を開催しております。今回は母校を訪ねる会に併せて、アカシヤ工友会を開催する事としたので、参加者は23人(但し母校を訪ねる会参加は22人)、夫人の参加9人、計32人となりました。古稀を過ぎてなお現役の人、悠々自適の人、或いは愛妻同伴で50年を経た母校を訪ねる感慨は一入でありました。我々の在学当時とは比べるべくもありませんが、母校の隆盛ぶりを直に見聞する機会が得られたことに感謝しつつ、充実したひとときを過ごすことが出来ました。懇親会では校友代表として、当会の佐藤会長も挨拶され、土木6回生の団結ぶりをそれとなくPRしておりました。

当会では当初の頃は福島県内での開催でしたが、学生が全国各地に参集している学部に対応しく、同期生の会も全国の校友の協力を得て、各県持ち回りで開催する事となり、昭和63年からは、北海道、山梨県、宮城県、沖縄県、千葉県、卒業後40年の母校を訪ねる会にあわせて郡山市、秋田県、福岡県、岐阜県、神奈川県そして今回の郡山市での開催となりました。会員は現在85名おりますが、仕事の都合や健康上の理由もあって、参加できる会員は徐々に減少して最近では20名程度となりました。全国の観光地を巡る事もあって、夫人同伴を認めることとしておりますので、今回も総勢で32名の会合となりました。

例会では恩師の木村先生と杉内先生をお招きするのが恒例となっておりますので、全国各地での開催にも両先生ご夫妻のご臨席を戴きました。今回も木村先生に無理なお願いをしておいでいただき、卒業後50年の記念すべき例会が更に意義深い、思い出多いものとな

りました。

磐梯熱海温泉、ホテル華の湯での夜の懇親会は、佐藤会長の提供による郡山芸妓衆の祝舞に始まり、壮年時代を思わせる宴席の盛り上がりぶりとなりました。翌日は都合により帰宅する人や米沢、蔵王観光参加16名、ゴルフコンペ参加6名とそれぞれ別行動となりましたが、秋のみちのくを楽しんで散会となりました。今後も2年に1度の例会は続けますが、体に無理なく、参加しやすくするため、各ブロック毎の会合を考えております。

最後になりましたが工学部並びに校友会関係者の皆様のご配慮に感謝申し上げますとともに、今後ますますのご発展を祈念申し上げ、土木6回生の会の報告と致します。



### 「母校を訪ねる会」に参加して 電気6回卒 池田 博次

毎年開催の「母校を訪ねる会」で昨秋は我々6回生も招待を受け卒業以来50年後の母校訪問となった。この半世紀の期間に校舎や研究施設などは全て整備され目に映るキャンパスは当時の面影は無く参加の友人達との会話や記憶をたどりながら我々が卒業の年度にやっと出来上がった鉄筋校舎(1号館)で授業を受けたことを思い出した。また、当時の先生方もみな“御卒業”しておりお会い出来なかったのが残念ですが無理もない創立から60周年が経過しているんだもん…そしてふと思った…我々も在学中に残した事柄などをこの辺で記事にしないと永遠に忘れ去られてしまうかも?…と思い電気6回生が在学中に残した業績等を思い浮かべ記す事にした。

その1は、今も運行中の日大前-郡山駅間の路線バスはこの時代に開通したもので、市内の下宿生の多くは列車で安積永盛駅下車でアカシア林を通して通学していたが、これが唯一の交通手段で、この不便さが不満となり学生大会でスクールバス運行の要望が決議さ

れ、当初は校友会による運行の計画であったが、当時は高価なバスの購入費用は資金的にもまたバスの運行上についても未知数が多く不可能との結論で、路線バスとして運行を県南交通(福島交通の前身)に依頼することにし交渉を始めたが、どれ位の利用者があるかが大きな問題点となり、なかなか先に進まず何度も交渉を続け、そして最後にはこの事業認可の運輸省(今の国土交通省)まで署名簿持参で掛け合い、精力的に動いたが運行開始までには、約半年が経過していたことを記憶している。この件については初めから開通まで吉田清君(韓国名:李漢奎)と私(池田)の2名が担当して目的を達成したが平成11年、吉田君は母国で病死している。

その2は、クラブ活動として学部への認可申請を十数名の連名で行い“無線部”として承認され活動を開始した。この時代はラジオの全盛期でテレビ放送は始まったばかりで、白黒テレビの普及がこれから始まる年代であり、秋の工学祭を目標に無線機類の製作など、趣味を兼ねたさまざまな作品が出来上がった。この初代部長は中島靖夫君で、このクラブはその後、電気研究会と改称され、広く電気全般への研究会として、発展の歴史を今も残している。

これらは私の記憶を基に記したが、6回卒の諸君でこのほか在学中にこんな貢献ごともあるよとの事があれば次の機会にぜひ付加して欲しい。

社会人として現役から現在までについては、国から瑞宝小授章を長山暁司君が叙勲しており、日大工学部



電気6回卒業生 同窓会出席者 (H20.10.25)



電気6回卒業生 左から中島 吉田 池田 長山

卒業生として、この功績は今般の校友会報「活躍する校友」欄でも紹介している。なお、「母校を訪ねる会」の前夜祭として、同級会には地元幹事穴戸敏雄・辺見仁のご両人の世話役で、十数名の出席者と共に開催されたが即、あつと言う間に学生時代にタイムスリップし、名前は呼び捨てでまた、当時の面影丸出しとなり、忘れていた記憶が蘇ったことなど、改めて昔の懐かしさを感じた次第である。これらの事柄は、毎回この会報で記事にされているが、若き時代のこれ等の思い出は誰しも一生忘れることはないでしょう。

最後に、我が母校の益々の発展のため教職員並びに関係者と校友会の皆様が一丸となって尽力することで、本校の更なる飛躍を念じながら結びの言葉とします。

## 元気な二名で同級会

工化6回卒 館川 裕

化学は16名いた。今は一人減り15名が余生を楽しんでいる。「第28回母校を訪ねる会」に招待された。この機に50年ぶりの同級会を計画した。欠席の返事は数人からあった。薬をのみながら病との戦いに明け暮れては儘々ならず、残念至極だった。欠席多数も致し方ない。出席は幹事の中山君と小生の二人だけ。元校友会長の佐藤光正氏が快く参加してくれた。当時の思い出など振り返りながら、時間の経つのも忘れ楽しく歓談した。



飛行機の格納庫がそのまま教室だった。倉庫を化学の実験室に改装した。今はその面影すらない。

士官の宿舎を改造した北心寮で4年間を過ごした。親の仕送りは電報が替だった。舎監の許可が下りないと現金に替えられなかった。ファイヤーストームの日は、電源を切り全寮暗闇になる。全員外に出てファイヤーストームを囲み寮歌、校歌などを歌い、エネルギーを発散した。

試験の時は、仲間と「やま」をかけ、そこを集中して

憶えた。試験の度に寮生の絆は強くなった。

僚友は掛け替えのない宝物だ。社会に出てからも、学科を超えてお互い助けあった。寮から始まり、寮で培った強い友達の絆は、いまでも生き続けている、などを回想した同級会だった。

こんな寮生活の楽しさを是非多くの若きエンジニアも味わってくれるといいな！乾杯！

## 第13回「桜三九会」同期会

土木16回卒 高橋 迪夫

「桜三九会」(さくらサク会)同期会を、「母校を訪ねる会」に合わせて、平成20年10月24日(金)・25日(土)の両日、あだたら高原岳温泉「ホテル光雲閣」において開催しました。

この会は昭和39年に土木工学科に入学した同期生でつくる会で、今回で13回目を数えます。

会には、恩師の村田吉晴先生にもご出席を賜り、同期生25名、夫人1名が集いました。久し振りに顔を見せてくれた友、毎回参加している常連の友、北海道、四国、大阪等、遠路駆けつけてくれた友、…。温泉につきりながら夜遅くまで語り合い、大変和やかな一夜を過ごすことができました。

翌25日は、懐かしい裏磐梯の見頃の紅葉を楽しむグループ、学生時代には想像もできなかったほど整備が進んだ母校を散策するグループ等、幾つかのグループに分かれてそれぞれの青春時代を思い返しながらかししい一日を過ごしました。

26日(日)には、当日駆けつけてくれた友、令夫人方も加わり、卒業40年目を迎える「母校を訪ねる会」に出席して懐かしい学び舎でのひと時を楽しみ、次回、大阪で再会することを約して、3日間の楽しい集いとなりました。



## 「40年目の再会」

機械16回卒 松崎 純一

『母校を訪ねる会』の案内が届いた時、「卒業して40年も過ぎたのか…」と感慨深いものがありました。その年月は長くもあり、又、一生懸命働いてきましたので、とても短く感じました。ふと同窓生の顔を思い出すと無性に会いたくなり、今回参加しなければ、二度と会う機会がなくなるのではと、すぐに出席の返事を致しました。私は自動車部に属していましたので、その部のO.B会に卒業後も何度か母校に行き仲間とも会っていましたが、今回は40年振りに皆に会えるので、とても楽しみにしておりました。

前日から郡山に入り、駅の周辺を散歩してみると、新幹線が通り、駅舎が立派になり、高いビルも建ち、すっかり様子が変わっていました。桜通りの道幅も広くなり、よく通った焼鳥屋はなくなって、時の流れを感じました。しかし、アーケードはそのままありましたし、パチンコ店もそのまま、なんだか嬉しくなりました。

当日、記念写真を撮る頃から胸のネームを見ながら「お～久しぶり」と声を掛け合ったり、じっと見つめるも40年前の顔が思い出せず失礼な事もありましたが、楽しいひと時でした。

私共機械科は、30名の出席があるという事で、祝賀会の後、関口一成君の計らいで機械科だけの同期会を開くことが出来ました。幸いに大学に小川君、渡部君、和久田君が居ましたので、彼らが段取りをしてくれ、機械科教室に全員集まり同期会を開催しました。

乾杯の後、互いの近況報告をしました。話を聞いているうちに40年前に帰り、空白が一瞬に消えました。各自卒業してからの経緯を聞くと、定年になって新たに会社を興し頑張っている人、病気をしたが薬を飲みながら身体に気をつけている人、働かなくては食べていけないと冗談を言いながら頑張っている人、夫婦で来られ、この機会に二人で東北を廻る優雅な余生を楽しむ人など、色々な人生があったのだと深く感心しました。

私は九州から行きましたので、途中で早退する事になり、皆さんに申し訳なく、又、残念に思っています。10年後には皆で一泊しながら語り合いたいと思います。

健康に留意し、元気な生活を送り、再会出来る事を楽しみに頑張っていきます。皆様もそれまで御健勝で又お会いしましょう。お世話をいただいた皆様ありがとうございました。

## タイムマシーンに乗って

電気16回卒 野原 敏男

在学中は郡山に辿り着くのにパスポート持参で、船、国鉄を乗り継いで2泊3日も必要でしたが、今回は朝一番の飛行機に乗り、新幹線に乗ったら昼過ぎには郡山に着いてしまいました。

郡山駅前、駅舎が完璧に様変わりして、東京で合流した同級生2人と一緒になければ郡山に着いた事を実感出来なかったと思います。

夕方からのクラス会までは時間がありましたので、郡山在住の伊藤君の好意により岳温泉、二本松城へドライブをして紅葉と菊人形を楽しむ事もできました、ありがとう。

居酒屋でのクラス会は卒業以来の面々がいるので、まず、自己紹介から始まりました。自己紹介してもらったら思い出した者と、すぐには記憶が辿れない者がいましたが、酒を酌み交わす内に居酒屋の部屋はタイムマシーンに乗って、40年前に戻ったようでした。

翌日、40年ぶりに正門を入るとそこは北桜祭の真っ只中で、模擬店と桜並木の間を歩いていると楽しい気分になりました。受付を済ませ、茶会のお手前を頂いてから会場に入りました。驚いた事には場内には卒業50年目の先輩方が多数いらっしゃいました。訪問は今回が最後かと思っておりましたが、次回も頑張れそうです。先輩方から元気を頂いたような気がしました。校友会事務局の皆様お世話になりました、ありがとう。



気持ちは20歳の面々

## 「母校を訪ねる会」に参加して

工化26回卒 飛田野 勉

10年前の楽しさが忘れられず、30年目の「母校を訪ねる会」に参加しました。今回も前日の25日に、工業化学科のクラス会が郡山市内の当時とは様変わりした「うすい通り」近くの料理屋で、全国から13名(女性2名)が集合して行なわれました。10年前にも集まった

懐かしい顔や、卒業以来30年ぶりで名前も思い出せない顔。しかしお酒が入り、最初は緊張ぎみだった顔が徐々に学生時代のあの頃に戻ると、記憶もだんだんとよみがえり、若く多感な時代そのままに話に花が咲き始めました。

思い出話が一段落すると仕事のこと、子供や孫の話、そして持病自慢など年齢を感じさせる話題も多く、30年の時間の流れを感じさせられました。その後の2次会でも時を忘れ語り合い、学生時代にタイムスリップしたような夜をすごさせていただきました。翌日の「訪ねる会」には7名（女性3名）とご家族4名が参加されました。なんと、このうちお二人のお嬢さんは、母親と同じここ日大を卒業した同窓とのことでびっくり。ご家族を交えて楽しい時間を過ごすことができました。恩師尾崎先生のお元気な姿にも感激し、現在の物理化学工学科西出教授からも現在の母校の様子などをお話いただき、当時と今の学生生活の違いにも驚きました。なごりは尽きませんでしたが10年後の再会を約束し、郡山をあとにしました。最後にこの会を企画いただいた校友会関係者の皆様、クラス会の幹事を引き受けてくれた橋本さん渡辺さんに心より感謝申し上げます。



### 「母校を訪ねる会」に参加して思うこと

建築36回卒 樋口 雅之

昭和63年建築学科卒の参加メンバーは、我が足立研（都市計画研）のみでした。40代前半という年齢から公私共に多忙であるのは当然で仕方ないのかもしれませんが、不参加の多くの読者の方、たった1人のちょっとした声掛けで結構集まるものですよ。私たちにとって本企画はいい切っ掛けとなり大学・校友会に感謝しています。また、人の輪を大事にし、かつ歴史があるからできるという本学のすばらしさも感じています。

さて、変貌した旧友たちの今昔話を聞き、そして久々に足を踏み入れたキャンパス・研究室に身を置き、自分自身といろいろ対話をしました。皆さんは自分

て何者？と考えることありませんか。私は自分を紐解くのに大学生生活6年間で得た日大ソウルは外せません。私の日大ソウルは次の2つです。①普通の人々の心がわかり、そして思いやれ、自分がその現実の先頭に立って頑張れる心。②そして何よりもまず動くこと、そして走りながら考えられる柔軟な適応力。

出村学部長と名刺交換をさせていただきましたが、その名刺には「100万人の仲間とともに」とありました。同窓生100万人が日大ソウルをもってその輪を大事にすれば、何か明るいものを感じるのは私だけでしょうか。母校を訪ねる会、自分を見つめ直す会となりました。忙しいときほど価値ある会と思います。





## クラブ・OB・OG会報告



### 日大工学部管弦楽部OB会総会

日大工学部管弦楽部OB会広報担当 **桃井 忠男**  
 総会には25名が参加し、多彩な演奏と音楽活動を披露

今年の総会は杉坂宏欣さんの司会で、8月3日(土)、ニュートーキョースキヤ橋本店9階「LA STELLA」に25名が集まり、ファミリーな雰囲気の中で進められた。千秋暢良会長は「総会は9回を数えました。今年には3名の新しい参加者も見え、25名が猛暑にも負けずに集まったことを皆さんと共に喜びたい。リタイヤ組みが年々増えるに従って参加者も増える傾向にあります。今後も仲間に声掛けし、楽しい日大工学部オケOB・OGの音楽活動を広めて行きたいと思います。益々のご協力をお願いします」と挨拶された。懇親会は小川明彦さんの司会と現場から作業着で駆けつけた篠原義明さんの乾杯の音頭で始まった。

近況報告に引き続き、日ごろの練習の成果を披露したアンサンブルでは①弦楽のためのエチュード②ロン

ドンデリーの歌③アメイジング・グレイス④赤トンボ(全員参加の合唱)の四曲。飛び入り演奏も多彩で、津川博保さんが初代指揮者・鳥居正積先生編曲の「荒城の月・変奏曲」を、曾木・千秋さんがカザルスの「鳥の歌」とサンサーンスの「白鳥」を、千秋さんのチェロ・菅田先生のチェラで「ロンドンディリー」を熱演されたので、卒業以来初めて参加の森田孝さん、平野昭正さん、坂井邦貴さんの3名も「器楽演奏を再開したくなるほど素晴らしい」と感嘆していた。



会場には嘗て合宿で使った「歌集」や「安積フィル・郡響の冊子」「演奏活動のアルバム」も回覧されたので、音楽談義も充実した会となった。羽鳥勝美さんが管理している「オケOB・OG会HP」では練習スケジュールや仲間の音楽活動が検索できるとの評判が良く、更に今年誉田克彦先生が立ち上げた「安積フィルHP」では楽都・郡山の歩みを知ることができ、話題になった。誉田先生は「楽都・郡山の歩みをもっと充実したいので、資料作成にご協力願います」と呼びかけたので、学生時代に「郡響機関誌スワン」に寄稿していた鷹齋さんなどから早速、協力の表明があった。

なお、年会費2,000円は、郵便局口座名「日本大学工学部管弦楽部OB・OG会」「記号10530」「番号65105371」へ振込願います。

(記事：桃井忠男、写真：小川明彦)

## 第9回三九会

機械12回卒 橋本 壽

第9回三九会(昭和39年3月卒業)を平成20年3月14日(金)に銀座で開催しました。開会にあたり校友会より丁寧なる祝電を頂き、その披露をした後、今回北は福島から赤松君、南は奈良から須佐君の出席もあり19名が集まりました。

仲間の河原君が北京オリンピック前の2年余にわたり、仕事を終えられたのを機会に帰国報告をしてもらいました。オリンピック景気で活況を呈しているものの物の考え方、文化の違いに少々苦勞された様です。

続いて三九会恒例の1人3分間スピーチ(殆どの方がオーバー気味ですが)では、最近の世情を踏まえた政治・経済から健康・趣味に至るまで、立場も現役の社長から悠悠自適の人まで議論百出でした。近況報告の中に亡くなられた外木有光教授が“機械にも命がある”と言われた事に感銘して以来、技術者として誇りを失っていない仲間もいて感激する場面もありました。

坂野教授からは最近の学部の状況や学生気質を話してもらったところで、一気に45年以上も前の学生時代を思い出し、懐かしむひと時も。誠に青春は夢にして又思い出の泉であります。時間は瞬く間に過ぎ、次回



の再会を約束して散会としました。

三九会は現地集合・現地解散を基本に、毎年何らかの形で集まり、絆を強めていますので、下記にご連絡頂ければ幸いです。

## 土木工学科二六会(19回)卒業還暦同級会開催

土木19回卒 長林 久夫 吉田 育男 鈴木 廣

平成20年5月31日(土)、旧知の32名が名湯、母畑温泉八幡屋に集合した。学窓を巣立って37年の歳月が経過し、年輪を刻んだ顔の中にも往時の面影が浮かぶ。

二六会は昭和42年入学、昭和46年卒業に関係するもので構成されており、数字の頭文字をとって名付けている。当時の3組(確か、土木工学科と建築学科の合同クラスであったと思う)を中心に毎年開催される同級会を、還暦を機に全員に声を掛けようと拡大して開催したものである。19回の卒業生209名のうち、物故者、住所不明者35名を除き、85名が出欠の連絡とともに近況を寄せてくれた。卒業後37年が経過してもなお170名に連絡が取れたことは校友会の名簿管理の賜物と感謝しています。

北海道の松久君、小豆島の石井君、富山の館君、大阪の前原君など遠来の友を迎え、はじめの整然としていた並びもいつしか車座になり、夜遅くまで楽しい語りが続いた。

翌日にはゴルフコンペを開催し、郡山の大河内等君がグロス91、ネット73.0で優勝、静岡の深沢好幸君がグロス94、ネット74.8で準優勝であった。

“この次は卒業後40周年の記念の会で”と再会を祈念して解散した。



二六会還暦同級会記念写真(母畑温泉八幡屋にて)

## 日本大学燃研(柳沼研究室)OBG会

工化22回卒 小澤 武則

第5回日大燃研OBG会が平成20年11月8日午後6時須賀川の割烹「聞香庵」にて盛大に開催する事が出来ました。当日は、今にも雨が降り出しそうな、肌寒い中スパ・ゴルフリゾート白河・矢吹にて参加者25名によるゴルフ好きがコンペを満喫し、表彰式後一路須賀川市のOBG会総会に直行した。

総会では、柳沼先生御夫妻の御臨席を賜り総勢63名にて、3年ぶりに開催を果たした。今回のOBG会は前回大変好評でありました須賀川市で400年続いている日本3大火祭り「松明あかし」の日に合わせて開催され、総会の会場からは大松明が燃え上がり、夜空が真赤に染まる光景を見物しながら恩師、先輩、後輩、同窓の方々と談笑、酒を飲み交わしながら再会を喜びお互いの自己紹介・仕事・近況等を報告し合った。又フラダンスの余興等も有りフラダンス教室が開かれ、小生も参加し大変和やかな雰囲気であった。

今回の総会も前回同様祭りや余興有りと、大変贅沢な総会で有りました。最後に校歌を斉唱し3年後の再

会を約束した。二次会では、時の経過も忘れ酒を飲み交わし大いに盛り上がりました。

翌日須賀川市探訪で牡丹園集合時には少々二日酔い、睡眠不足であった。福島空港に向け出発、空港内の会議室にて見学、歓談後昼食を取りそれぞれ帰路に就いた。

今回もOBG会に出席し感じた事は3年ぶりに再会し、数多くの先輩、後輩との情報交換や親睦が深まり、大変有意義な2日間を過ごす事が出来ました。最後に、今回御尽力されました幹事と参加された皆様に厚く御礼申し上げます。



## 支部活動報告



### 北海道支部活動報告

建築25回卒 北海道支部長 横関 一伸

本年度支部総会は北海道支部設立35周年でしたので、10月18日(金曜日)本部より手塚新会長、又、工学部より出村工学部長をお迎えして、北海道支部会員60余名の参加により、総会及び懇親会を行いました。いつもは6月頃開催予定でしたが、今回は北海道洞爺湖サミットが開催されたため時期がこの様に遅れました。

懇親会では今回35周年の記念講演として前会長の岡本顧問より、今回の環境サミットへの岡本興業としての取り組みや記念講演をして頂きました。また、35周年記念の抽選会を開き、出村工学部長は、見事に自分のカードを引き当て旅行券を他の2名と共に獲得されました。

今回初めて参加された方々や暫くぶりに参加された方々が、近況報告をされました。

郡山での生活や思い出話に華を咲かせ、北海道の不況がどうしようもないと何か悲観的な話ばかり出ていましたが、みんな元気を出して、これを乗り切ろうと

誓い合い、そのまま、2次会へと繰り出し、中には、5次会迄という方々も沢山お出でて、皆、名残惜しそうに一時を過していました。来年は、各支会での校友会ももっと活発に行い、この経験のない不況を克服すべく、日大工学部の絆を深め、北海道支部、工学部校友会を盛り上げたいと思います。最後に北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

### 関東支部活動報告

土木14回卒 関東支部長 児玉 憲明

校友会創立50周年を迎えて

工学部校友会が創立50周年を迎えられ、関東支部を代表して心からお祝い申し上げます。また、昭和33年に校友会を立ち上げられた先輩諸氏のご功績に心より敬意を表します。

関東支部は、平成9年4月5日に前身である旧東京支部を改名し設立され、現在1都8県を包括し活動しております。

旧東京支部というのは、昭和33年5月に工学部校友

会が「第二工学部校友会」として発足した13年後の昭和46年4月、前東京支部長故古村和夫氏(土木3回卒)が中心となり最初の校友会支部として結成されました。

以降、氏は支部長として校友会組織強化の範となるべく、26年間校友会活動に力を尽くされました。

当支部の活動目標をご紹介します。

- (1) 1都8県の独立運営を前提とした校友会支部を組織する。
- (2) 工学部校友会関東支部事務所を専管組織化する。
- (3) 他校友会支部相互交流を図る。
- (4) 会員の技術向上に向けた技術支援を行う。

関東支部は、現在21,074名の構成員を擁しており、全工学部校友会(50,208名)の42%を占めております。

昨今の例年にない経済不安、業界不況の厳しい時こそ、その構成員数に恥じることはないよう、構成員同士励まし合い切磋琢磨しあいながら校友会を盛り立てていかなければと使命感を新たに致しております。

## 北陸支部活動報告

建築17回卒 北陸支部長 笠井 隆

校友諸兄には益々ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

今年度の主な活動は、8月2日に新潟市内のホテルにて第8回定時総会を開催しました。又10月4日には新発田城ゴルフ場に於いて、懇親ゴルフ大会を開催し、関竹夫さん(土木22回卒)が優勝されました。

総会終了後は父母会と合同で懇親会を行いました。常任幹事の田村さんから『出村学部長からの要請があり、学生の就職支援をバックアップするため本会の中に就職支援特別委員会を立ち上げることとなりました』と先を見通した心温まる御挨拶があり、出席した父母会の方々も心強く思われ盛大な拍手を頂きました。

私事となりますが、平成20年度工学部校友会通常総会において、浅学非力な私が常任幹事を委嘱されました。微力ではありますが本会の発展のため尽力致しますので何卒今後ともよろしく御願い申し上げ活動報告と致します。

## 東海支部活動報告

工化20回卒 東海支部 齋藤 俊郎

(オブアート・サイトウ代表)

校友の皆様方には、益々御活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

平成20年度支部活動は、例年と同様懇親ゴルフコンペを春に(5月24日)開催しました。参加者が少ないにもかかわらず和気あいあいと懇親ゴルフを楽しみまし

た。

支部総会は、7月25日に名古屋駅前のホテルキャッスルプラザで開催しました。川村智健支部長(土15卒)の挨拶に始まり、本部から手塚公敏校友会会長及び五郎丸英博教授の両名の御出席をいただき、校友会の現状とこれからの方向性について、少子化の進む中での募集の現状や学内の近況報告を含めたご挨拶を頂き、参加者一同深く心に感じた次第です。元イーホームズ代表の藤田東吾様を講師にお招きしての講演会の予定がありましたが、講師が体調を壊され中止となっしまい、期待していただけに気落ちいたしました。続いて、年間活動報告、会計報告があり原案どおり承認され、総会は終了しました。



その後の懇親会では、平野卓前支部長(土3卒)の乾杯の発声で始まり、先輩、後輩のわけ隔てなく懇談し有意義な時間でありました。最後に全員で校歌を歌い盛況にお開きとなりました。

さて、平成20年前半には原油や食料の異常な価格高騰があり、後半にはサブプライムローン問題を発端とする世界的な金融危機がありました。我々校友の日常生活もその世界経済と無関係ではないことを実感しました。

支部での工化卒参加者は自分一人だけとと思っていましたが、工化卒の後輩五十嵐一二三君(工化22卒)が出席していました。直接仕事には結びつきませんが、同じ工化卒という何かほのほのするような仲間が出来たかのような気分です。同学部の先輩後輩が一堂に会する席に参加し、友好の場が広がるこのような機会には是非参加して仕事や趣味等々の仲間を見だし、そのような経済状況を打破するため、また、日常生活向上に校友の皆様との情報交換、連携が重要となります。

今後の活動に、より多くの校友の参加をお願いして活動報告と致します。

※オブアート・サイトウ(サンドブラスト&フュージング工房) / ガラス・木材・陶器・金属等に彫刻、ガラスアクセサリー・ガラス表札・ガラス時計等製造販売

## 東東海支部(静岡アカシア会)報告

土木28回卒 東東海支部長 大澤 俊幸

平成20年度支部総会は平成20年8月22日(金)ホテル沼津キャッスルにおいて手塚校友会長、学部より建築学科主任、若井正一教授の御出席のもと東部地区中心に96名の校友が出席して開催されました。

昨年迄は静岡市中部において開催されておりましたが、地域も広く出席者も例年150名以上ということで互いの懇親も薄くなりがちということ、そして、西部(浜松)地区においては30年も前から西部アカシア会が開催されていることから昨年からは県内を東・中・西部の3地区にわけて開催し全体の総会を毎年持ち廻りにしようということで本年度は東部地区の静岡アカシア会が全体の総会を兼ねるということになりました(本年度3地区の合計参加校友は162名)。

初めての東部地区総会となりましたが、日吉副支部長(東部地区長)を先頭に県庁、そして沼津市役所の校友の御協力により遠くは下田そして富士・富士宮地区からさらに女性・20~30歳代の若い校友が多数出席していただき明るい熱気あふれる会となりました。

本支部は校友相互の懇親はもとより父母会との協力体制のもとに学生の就職援助、そして工学部校友会唯一の職域支部であるアカシア教育研究会との協力により優秀な高校生を母校に送り込むという活動を行っております。

来年度(21年度)は中部(静岡市)が総会会場となりますので(予定は8月頃)多数の校友の御出席を期待しております。



## 四国支部活動報告

土木25回卒 四国支部事務局長 山口 恭平

平成20年度支部総会は、7月26日(土)本部より手塚会長をお迎えして、昨年と同じ高松駅近くのホテル「ニューフロンティア」で開催されました。

4、5年前までは総会後の懇親会には校友の家族を招待し、ジャズの生演奏を聞きながら賑やかに開催していましたが、出席される会員の高齢化に伴い家族の参加も少なくなり、また少しマンネリ化も感じられたので、今年の懇親会は原点に戻し、校友だけとしました。会場の雰囲気作りには工学部校友会50周年に因んで私の趣味のボサノバも生誕50周年でしたので香川のボッサデュオであるフェリアードをバックバンドとして迎えました。おじさんばかりの会に受け入れられるか少し不安がありましたが、流石校友! 乗りのセンスが良く、理解も早く、大いに盛りあがりました。最後にサプライズとしてバンドの方達に日大校歌をサンバ風にアレンジしてもらい、“サンバ日大校歌”を楽しく歌い無事会を終了しました。



支部活動の原点=校友の心を“母校を訪ねる会”に置き本部の平成20年度通常総会(4月19日(土)=校庭の桜が満開、三春の滝桜も見事でした)四国支部から支部長他7名が参加しました。参加者の中には卒業以来の者もあり工学部及び郡山駅周辺の変貌に驚いていました。以上、四国支部も活動のより活性化に取り組んでいます。

四国支部では、毎月第1木曜日PM.6:30より一木会(懇親会)を開催しています。

場所 「はんぶん」(高松三越の東)

TEL. 087-821-7856

毎回10名程度が集まっています。気楽に寄って下さい。

## 九州支部活動報告

建築28回卒 九州支部長 上村 公仁隆

九州支部の活動報告をします。毎年のごとく、毎月第3水曜日にはアカシヤ会を開催しています。出席者は校友会の会員に限らず、校友の関係者の参加も歓迎しています。アカシヤ会では情報交換だけでなく、校友会九州支部の役員会も兼ねて行われることもあり、行事等の打ち合わせもしています。また日本大学校友会福岡県支部の行事についても打ち合わせをしています。

今年の特別な活動としては、日本大学校友会福岡県支部の90周年のため、工学部校友会九州支部も毎月のように行われる打ち合わせ会議に出席しました。日大の校友会福岡県支部では校友会の県史編集も行われており、会議が頻繁に開催されました。90周年の記念事業では工学部校友会九州支部は日本大学の建学の祖である山田顕義先生の生誕の地である山口県萩市の顕義園を訪ねるバスツアーの担当になり、10月11日に校友数名と下見に行きました。担当の工学部校友会と福岡県建会と土木福岡校友会の3部会で顕義園のバスツアーの企画運営をしました。

また、数年ぶりに昨年参加した柳川の白秋祭の川下りに今年も行きました。18人乗りの船に校友だけでなく、家族や同僚なども参加して、鰻を肴にお酒を酌み



交し、堀沿いには出し物の踊りや演奏のステージがいくつもあって、とても雰囲気の良い夜の川下りを楽しみました。

今年の総会も福岡県外の参加に呼びかけをしましたが、景気が悪い事もあるのですが、今ひとつ盛り上がり欠け、昨年並みの参加者数でした。もっと声かけをすれば出席者は増えると思いますので、毎月行っているアカシヤ会を活用して、来年はもっと参加者が増えるように努力したいと思います。

## アカシア教育研究会

建築22回卒 会長 永田 進

本会は伝統ある工学部校友会の中でも唯一の職域支部としてユニークな存在である。会員相互の親睦・研修はもとより在学生の教職希望者に対しての支援・協力を大きな柱としている。

特に本年度も学生(既卒者を含む)の努力と校友の支援のおかげで大きな実績を残すことが出来た。中でも静岡県高校・工業(建築)の採用選考試験においては、約20倍という難関を制して2名の採用内定を工学部生が独占いたしました。

その他の都道府県においても着実な向上が見られ「工業教員日本一」の伝統を誇る工学部の伝統がしっかりと守られています。



◎新潟支部結成

平成20年6月14日(土)新潟市内において県内在住の

会員8名が集まり支部を結成いたしました。

学部より小林力教授・長林久夫教授、校友会より笠井隆北陸支部長が御出席いただきました。支部長には伝統校長岡工高校長の久保田幸正先生(建19)、事務局長に横尾聡(建28)を選出いたしました。

#### ◎教職特別講演会

平成20年11月29日(土)静岡県立焼津水産高等学校の長谷川勝治校長先生(生物資源科学部卒)をお迎えし

「私の歩んだ道－学校生活・教員生活を振り返って」と題して講演をしていただきました。

この数年、本学卒業の実績ある先生方の講演は、机上では学ぶことの出来ないものであるので学生に大きな感銘を与えて来た。本会もこの講演会には微力ながら協力したので、学生の好評には大いに力づけられた。

## 校友レポート

### 電気設備の会社に就職して10年



東光電気工事株式会社  
電気45回卒 早乙女 道宜

私は、平成11年3月に工学研究課博士前期課程電気工学専攻を修了し、同年4月に東光電気工事株式会社に入社しました。入社してからは改修工事現場、新築工事現場の施工管理を行ってきました。現在は設計部に所属しており、事務所ビルや学校、店舗など様々な建物の電気設備の設計監理業務を行っております。

弊社は、大正12年に創立された東光商会のころから数えると、既に80年余の歴史を持っており、「豊かな経験」「良心的な電気工事」をモットーとする電気工事一筋の会社です。

今年の4月中旬には、千葉県市川市に建て替えられている研修センターが竣工します。この研修センターは単身者や独身者の社宅が併設されており、社員の階層別研修や製図・CAD研修だけではなく講習会や特別教育の場としても利用されます。また、屋上には太陽光や風力発電システムなど設置され、新技術の研修も行われます。

私が勤務している会社の話はここまでとして、私の

学生生活を振り返ると、卒業研究は照明工学と電気設備工学を専門とする松浦教授にご指導を頂きました。研究室では、竣工現場の見学やいろいろな照明器具を試作して電気設備学会などで発表を行いました。我々の研究室で製作して学会で発表した照明器具が50周年記念館(ハットNE)1階のATM前に取り付けられています。この照明器具は天井面に光が達するように改良したものです。ぜひ50周年記念館を訪れた際にはご覧になって下さい。



また、部活動は下宿先の先輩の誘いもあり体育会日本拳法部に入部しました。日本拳法部では第29代主将を務めておりました。今では、日本拳法部の苦しい練習で培った強い精神力と体力のおかげで、社会に出て辛い時も乗り越えられているのだと思っております。

最後に、学生の皆さんは悔いのない学生生活を送って下さい。特に4年生の皆さんは景気低迷の中での就職活動は非常に大変だと思います。このような時こそ日本大学工学部で学んできた自信と誇りを持って就職活動を行い、必ず栄冠をつかんで下さい。



本館



ハットNE

## 4年間で学んだこと



電気電子工学科 4年

高世 諒太

内定先:内閣府警察庁

東北管区警察局

(国家Ⅱ種 電気・電子・情報区分採用)

在学中の私にとって、「がんばり

記」に選ばれたのは大変光栄なことです。本来、日大の卒業生の方が社会に出てからの経験や心境の変化等を書くものですが、私は学部生ですので社会経験はアルバイトくらいしかありません。

そのため、最近の日大工学部の様子などを織り交ぜつつ、私が公務員内定に至るまでの経緯を大まかに紹介したいと思います。

まず初めに、私が本学工学部に入学したのは70号館と言う新館ができる1年前、平成17年4月でした。某国立大の受験に失敗し、両親の勧めでこの郡山の地へ来ました。精神的にも未熟だった私は、受験での「失敗」を引きずり、ダメ学生を絵に描いたような生活を送っていました。

公務員を目指そうと思ったのは、同年の9月、後期のガイダンスにて学内の公務員講座の紹介を受けたためです。この講座は、毎週土曜に講義や模試を行い、筆記試験の対策をします。また主に4年次生が受講する直前講座では講師の島村隆太氏の指導の下、面接練習、集団討論も指導していただきました。

初めは、興味本位で参加したのですが、講義等での島村先生の熱のこもった話を聞いていたせいも、2年次の冬頃には「本気で公務員を目指そう」と決意しました。私自身、工学部に来て、まさか、国語や歴史、経

済といった文系科目を再び勉強するとは思いませんでした。

また、4年次には、英会話講座も受講しました。ここではネイティブの英語に触れることができ、TOEICのスコアも飛躍的に伸ばすことが出来ました。

この2つの講座に参加したことで、他学科他学年に多くの友人を作る事が出来ました。

また電気電子学科に所属していた私は、卒業研究で長澤先生のアンテナ研究室を選びました。ここで行った「スパイラルリングアンテナ」の研究は2月26日に東北学院大学を会場にして行われた東北地区若手研究者発表会で報告することができました。長澤先生には「公務員の受験があるから」と研究を休ませて頂いたり、「夜中も研究室で勉強していいから」と気を遣って頂いたりと様々な面で大変お世話になりました。

卒業を目の前にして、4年間を振り返ると本当に充実しており、私自身、本学で学んだこと、得たものは計り知れません。非常に多くの貴重な経験をすることが出来ましたし、「大学とは学生にとって自分の将来をきめる場所だ」という考えをもつことが出来ました。私がそうであったように、「工学部だからエンジニア」というような決め方ではなく、「自分に合うものは…」と選択できる環境は大変ありがたいと思います。

そういった点からも本学は大変魅力的だと思います。

結びとなりますが、まさにこれから世のため、人のために働くことになるわけですが、電気・電子・通信の分野から皆さんの生活に安心と安らぎをお届けできるようにこの大学生活で得たものを生かして、私自身もさらに努力をしていきたいと思っています。



正門



教室棟



電気工学科 第6回卒業  
長山 暁司  
(ながやま たかし)

## 祝 瑞宝小授章

○経歴

- 昭和32年 電気工学科卒業
- 昭和33年 社団法人 菊池自然及び科学研究所・研究員
- 昭和37年 防衛庁技術研究本部入庁。第一研究所第四部、技術開発官(船舶担当)付、第五研究所第一部音響第四研究長、水中磁気、水中音響技術研究に関する。技術開発官(船舶担当)付第五班長 水中音響・磁気に関する研究開発。
- 昭和61年 副技術開発官(船舶担当)水中武器等の研究開発全般の指揮を補佐。
- 平成2年 技術開発官(船舶担当)付 主任研究官
- 平成5年 防衛庁 定年退職
- 平成8年 株式会社日立製作所入社。情報通信事業部防衛システム本部 常勤嘱託 ソナーに関する技術案件の技術指導に関する。
- 平成13年 株式会社島津製作所入社。分析計測事業部 嘱託 電磁気水中監視装置の研究開発に関し、指導、助力に関する。
- 平成14年 財団法人 防衛技術協会 客員研究員。海外における水中防衛技術の調査分析に関わる。
- 平成19年 潜水艦探知技術の研究開発における功績で、平成19年度秋の叙勲・瑞宝小授章を受ける。

## 国家公安委員会委員長 内閣府特命担当大臣 (沖縄及び北方対策担当・防災担当)



土木23回卒 佐藤 勉

春暖の候、校友の皆様におかれましては時下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。

この度、関係各位の皆様のお力添えを頂きまして、校友の皆様にご挨拶させて頂くことになりました。

私事ですが、麻生内閣の発足に伴い、「国家公安委員会委員長、内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策担当・防災担当)」という身に余る役職を拝命させて頂きました。これも偏に、校友の皆様にも長年ご支援を頂いた賜物です。

就任してから半年余りが経過をいたしました。世を騒がせるような失態を演じることもなく、不慣れながらも誠心誠意取り組んで参りました。

国家公安委員長として、「振り込め詐欺」の対策や、凶悪犯罪の頻発を受け、警察官の増員や、子供たちの「安心・安全」を確保するための環境整備に取り組んでおります。

沖縄・北方担当として沖縄に訪問し、先の大戦で犠牲になった方々に哀悼の意を捧げ、沖縄の現況を目のあたりにし、北方領土に訪問した際には、元島民の方々の必死な訴えを受け、一刻も早い返還を実現させることをお誓い申し上げて参りました。

防災担当と致しましては、今後起こりうる自然災害に対してどのように備えていくか、そしてどのような対策を講じていくべきかを国家百年の大計として考えております。

郡山での生活は俗にいう「キャンパスライフ」というような甘い言葉ではなく、まさに「男」の生活。かの有名な「村田学級」の下で本当に素晴らしい仲間と出会い、かけがえの無い時間を過ごしました。あの濃密な時間を共有した仲間との友情は今も途切れることなく続いています。

子供から大人へと変貌を遂げる大事な「青春時代」に、郡山で身に付けた様々な知恵や知識は、政治家になった今でも私の礎となっています。

「日大工学部校友会」の名を汚さぬよう、今後も職務に取り組んで参りますので、更なるご指導、ご鞭撻をお願いすると共に、末筆になりましたが、校友の皆様のご多幸をご祈念申し上げます。

## 2008全日本ロードレース選手権参戦報告書

機械53回卒 木村 旭厚 (所属:TEAM PRO-TEC 参戦クラス:GP250)

開催日時	競技大会	予選	決勝
4/5.6	全日本ロードレース選手権 R1 もてぎ	13位	10位
8/23.24	全日本ロードレース選手権 R4 SUGO	13位	10位
2008年全日本ロードレース選手権ランキング 15位			

今シーズンは全日本ロードレース選手権GP250クラスへの参戦2年目でした。一身上の都合で、もてぎとSUGOのみのスポット参戦となってしまいましたが、昨年のように勉強をするというような気持ではなく、しっかりとした成績を残すことを目標としました。

今年初戦のもてぎでは、レースウィークを通し集中することができ、予選・決勝順位ともに自己最高位を獲得することができました。しかしながら、予選はアタック中に転倒してしまい、課題として残るものも数多くありました。

SUGOは天候が目まぐるしく変わる中、マシンセットアップや気持ちの切り替えをうまく行うことができ、昨年よりも成長できたと思える部分がありました。順位は10位ということでシングルフィニッシュはできませんでしたが、この時点で自分が持っている力は十分に発揮できたと思います。

今後は、自分のスキルをより高め、より高い場所を目指していきたいと思っております。応援ありがとうございました。



## 工学部へバス購入資金として300万円を援助

校友会では工学部バス購入資金の一部として、300万円を援助しました。校友会では学生への支援も事業の一環と考えております。バスは主にサークル活動や研究室の研修といった課外活動で使用されるとのことなので、多少でもそういった学生の活動の支援に繋がればと思い今回の援助となりました。

母校を訪ねる会懇親会場にて工学部バス購入資金の目録授与をさせていただきました。



## 校友会旗の新調について

平成20年度で工学部校友会が50周年を迎えました。これを機に、工学部校友会として以下のような「校友会旗」を新調しました。

寸法：縦70cm・横100cm

生地：正絹綾錦地

刺繍：金銀糸色糸美術総機械刺繍



## 平成20年度 課外活動サークルの主な大会と成績

### ●体育会サークル

空手道部	第61回福島県総合体育大会 成年女子組手 第2位
	第13回空手道糸東会東北選手権大会 成年女子組手 優勝
剣道部	第56回東北学生剣道選手権大会(個人) 第5位
硬式ソフトボール部	第29回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会 第3位
硬式野球部	2008年度南東北大学野球連盟春季リーグ戦 準優勝
	2008年度南東北大学野球連盟秋季リーグ戦 準優勝
	平成20年吾妻杯争奪大学野球選手権大会 準優勝
柔道部	全日本理工科学生優勝大会 ベスト8
	郡山市民体育祭柔道競技大会 第3位
水泳部	福島県大学対抗戦「大沢杯争奪戦」 総合優勝
日本拳法部	平成20年度日本拳法・徒手格闘南東北大会 女子個人第3位
ハンドボール部	第43回東北学生ハンドボール春季リーグ戦3部リーグ 準優勝
陸上競技部	第63回福島県陸上競技選手権大会 男子100m第2位 男子200m第2位
	第35回東北総合体育大会 男子200m 第7位
	第37回東北学生陸上競技選手権大会 男子100m第1位・第3位 男子200m第2位
	第59回東北地区大学総合体育大会 男子100m第1位・第2位 男子200m第2位

### ●学術文化サークル連合会サークル

機械研究会	2008MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦もてぎGP250 10位入賞
-------	--

### ●未加盟サークル

吹奏楽部	福島県吹奏楽コンクール県内支部大会 銀賞
------	----------------------

### ●学外行事参加・学内外展示公演等

音楽研究会	新入生歓迎ライブ(郡山市内)・イベント(郡山市内)・Xmasコンサート(郡山市内)
モダンジャズ研究会	リトルジャズコンサート2008(工学部ハットNE)・Jazz Recital(工学部ハットNE)
フォークソング同好会	新入生歓迎ライブ(工学部112教室)
演劇部	春期公演(工学部ハットNE)
桜家一門YOSAKOI隊	うつくしまYOSAKOIまつりin郡山(郡山市内)・オランダ祭り(鏡石)・みちのくYOSAKOI祭り(仙台)
吹奏楽部	第35回定期演奏会(郡山市民文化センター)

### ●公共団体表彰

体育会	郡山市民社会福祉大会(郡山市民文化センター)・平成20年度全国社会福祉大会(日比谷公会堂)
-----	---

就職指導委員会委員長 武内 惇

就職指導課長職務代行 伊藤智夫

はじめに、工学部学生の就職支援のために貴校友会に学生支援委員会を設置していただきましたことにたいして心から御礼申し上げます。小文では、工学部の就職の考え方を述べ、学生支援委員会と連携して進めたい就職支援について述べさせていただきます。

### 1. 就職の考え方

現在、社会の経済状況は厳しさを増しており、これまでと異なり、将来に亘って就職を志望する学生に対する期待と要求は厳しいものとなると考えられます。「就職」の考え方を再度確認して、学生の指導、支援体制の改善を進める必要があると考えています。すなわち、

就職とは、「学生が自分と同じ志(すなわち、遂行したい社会貢献)を持った人の仲間に入り、皆で力を合わせて一人では成しえない大きな志を達成する場を得ること」、また、採用とは、「自分達と同じ志を持ち、それを達成する個性(すなわち、基礎能力)を持つ人材を集め、皆が力を合わせて一人では成しえない大きな志を達成する場をあたえること」との本来の考え方に立ち戻る必要があります。

### 2. 就職の支援

就職活動では、自分の「志と個性」を採用側に提示し、志が採用側の「志」と一致していることを示し、また、採用側が求める「個性」を有していることを示す必要があります。これまでのように、自分のためにやりたいこと、すなわち「希望」を主張しても、採用されることは難しくなると思います。このため、就職の支援としては、学生に対して、①位取りの高い「志」の確立、②「個性」のレベルアップ、③就職先の選定、④「志と個性」の就職先への説明を指導・助言する必要があると考えています。特に、①の位取りの高い「志」の確立、および、③の就職先の選定についての指導は大学だけでは難しく、以下のように、校友会の諸先輩からのご指導ご助言をいただかなければならないことであると考えています。

#### (1) 位取りの高い「志」の確立

「志」を確立するためには、①将来の社会の姿とそこで起こると考えられる問題、②問題解決のために自分は何をやるか(社会貢献)を明確にする必要があります。これらのことは、実務経験の無い学生が自分で考えてもなかなか決めることは難しいことであり、また、採用側の志(理念)と合致していることが求められることから、校友会の諸先輩からご指導ご助言をいただきたいとします。業界研究会や先輩との懇談会、見学会、実務体験などを積極的に進めて、諸先輩からいろいろな事例を伺い、学生が自分の志を決められるようにしたいとします。

#### (2) 就職先の選定

就職セミナーや卒業生のリクレータによる会社説明会、CSナビ、NU就職ナビによる企業情報の提供、さらに、卒業研究指導教員、各学科の就職指導委員や就職指導課による就職情報の提供や指導

という従来からの就職先選定支援の他、校友会の諸先輩と教員や就職指導課が連携して学生の就職を誘導する仕組み作りを行いたいと思います。

#### (3) 就職先の開拓

これまでは、各企業からの求人情報を受取ることによって、就職情報を整理し、学生に開示しておりますが、これからは、積極的に就職先を開拓することも重要であると考えております。特に、最近では学生の出身地での就職を望む声も多く聞かれます。そのようなことに応えるために、全国各地における就職情報や、校友ご自身からの採用情報をご提供いただけるような就職支援の仕組みを作りたいと思います。

#### 3. 公務員試験対策

「公務員に強い工学部」を目指しています。新入生の内、福島県出身者は半数に迫っており、福島県や県内市町村への就職希望者も増大しております。公務員志望の学生の支援のため、(1)各学科からの1名の委員と就職指導課長からなる公務員試験特別委員会を設置し学生支援の仕組みの構築と運用管理を行い、(2)公務員試験専用の筆記試験対策講座を開設して学力の向上を図っています。筆記試験に関しては成果が上がっており、これからは、筆記試験の後に行われる面接試験対策の充実を図りたいと考えています。面接試験は各署の状況を踏まえた上での質問・回答が求められます。幸いなことに校友会の先輩には県内だけでも488名の公務員がおられます。先輩との模擬面接や懇談会、見学会などを開催して、先輩のご指導ご助言をいただき学生達が面接試験に合格できるようにする仕組みを確立したいと考えています。

高い「志と個性」を持った学生を育てて社会に送り出し、彼らが校友会のメンバーとして今度は後輩の指導をしてくれる、「就職に強い工学部」を支えるサイクルを回す仕組みを貴学生支援委員会と一緒に確立し、実行していきたいとします。これからも校友会の先輩の方々からの工学部に対する変わらぬご支援をお願い申し上げます。小文をおわりとさせていただきます。

## 学生の就職に関する校友へのお願い

工学部校友会 就職支援特別委員会

昨年の後半より未曾有の経済危機が全世界に波及しています。日本も例外では無くなってきています。このような経済状況が学生の就職活動に大きな影響を及ぼすことが予想されます。

そこで校友会の学生支援の一つとして、求人に関するホームページを開設しますので校友の求人情報をいただきたくお願いいたします。求人に関する情報は学部の就職課へ送り学部の就職ナビへの掲載をお願いすることにいたします。学生を必要とする校友と職を求める学生とのあいだの橋渡し役としてご活用していただければ幸いです。

## 記念誌の概要

工学部校友会は昭和33年に設立されて50年余の歳月を重ねて参りました。この間、母校工学部と校友の間をつなぐ絆として種々の校友会活動を展開してきました。

記念誌には、校友会の沿革誌をはじめ、事業や行事などの記事と写真を載せて当時の状況を歴史的記録として残しておくことに致しました。

また、校友会の会員数は平成20年度現在、五万余名に達しましたので、会では校友会活動の円滑を期すため、会員の多い主な地域や教育関係者のグループなどを含めた支部と支会を設けていますので、これらの記録も掲載することに致しました。

今までの事業は校友を主として営んで来ましたが、これからは在学生に対しても校友会活動を展開しなければならない時代がやって参りました。これに対応する一つとして学生諸君と学部並びに校友会との座談会を開きその様子なども載せることに致しました。その他課外活動で顕著な功績を挙げたクラブなども紹介致します。

さらには、社会でご活躍されているOB・OGの方々から寄稿していただきました「学生時代の思い出」などをとりまとめて記載致します。

なお、本来ならばこれを機に会員の皆様の連絡先も含めた住所録を記載すべき所ですが、プライバシー尊重の立場から校友会各位の氏名一覧を掲載することに致しました。

その他、余白には、母校工学部や校友会の現在の様子をちりばめる予定であります。

平成21年2月現在 編集子

「日本大学工学部校友会設立50周年記念誌」  
発刊に伴う個人情報使用に関するお願い

校友会設立五十周年記念誌編纂委員会

委員長 木村 圭二

昭和33年に発足した工学部校友会は、平成20年をもって設立50周年となりました。その記念事業の一環として、この度「日本大学工学部校友会設立50周年記念誌」を発行する運びとなりました。

それに伴い大学、校友会に保存している集合写真・氏名(卒業年数・学科)等の個人情報を一部掲載する予定となっております。時局がら、これらを使用する際には卒業生個々の了承を得ることが必要となりますが、写真・資料の数が膨大なものとなるためその作業を行うのは大変困難であります。

そこで、このお願いをもって個人情報の一部を使用させていただくことをご了解いただきたく存じます。

もし不都合のある方は、誠に恐縮ですが、編集の都合により平成21年10月までにご連絡くださいますようお願い致します。

ご意見・ご質問のある方は、下記にご一報下さいますようお願い申し上げます。

〈日本大学工学部校友会事務局〉

〒963-1165 郡山市田村町徳定字中河原1番地

TEL&FAX 024-944-1327

E-MAIL info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp

尚、掲載にあたりましては、万全の注意を払うことをお約束申し上げます。

〈追伸〉50周年誌の発行は平成21年度末の予定ですが、有償による配布となります。価格については、送料込1,000円を予定しております。

### 日本大学工学部校友会会員通信費寄付者ご芳名

(敬称略・平成20年3月8日～平成21年2月9日)

#### ●55回卒

土木	青山 心	物質化学	吉成 善裕	大谷 将一朗	長尾 和廣	塚野 喬史	平野 慎吾
	影山 栄司		石田 浩文	竹中 啓太	増子 智裕	渡邊 一樹	北野 裕平
	高橋 勇		大里 真希生	丹野 祐人	機 械 飯澤 頼一	小泉 雅志	佐々木 康太
	西牧 寛臣	情 報	椎名 啓介	横山 宗和	遠藤 和彦	電 気 電 子 浅沼 邦夫	物質化学 石澤 陽介
建 築	秋光 昂		河田 成広	齊藤 仁志	大井 潤	猪俣 隆志	濱本 優
	米田 亜耶子		佐藤 伸祐	原田 悟	三瓶 寿久	大槻 智大	三澤 祥大
機 械	飯泉 貴仁	建 築	設楽 宗寛	阿部 大樹	下村 和彦	折笠 裕俊	情 報 五十嵐 拓智
	角田 宏之		高橋 俊之	荒井 佑太	新垣 真太	木島 伸明	猪野 智史
	富士 卓也		釣谷 真也	黒澤 健一郎	竹内 良憲	齋藤 由典	印南 雄太郎
電 気 電 子	枝 孝		牧野 寛之	酒寄 剛	永井 祐一	佐藤 伸太郎	中石 雅之
	志賀 祐介	●56回卒	森川 武	下山 裕輔	林 悠也	鈴木 靖士	中山 隆
	樋代 直人	土 木	●56回卒	松永 拓磨	原田 悠太郎	高橋 和幸	峯嶋 伸行
	宮田 統馬		秋山 泰裕	長 永仁志	渡辺 祐樹	竹山 進二郎	菊池 剛輔
			石上 慎哉	井田 吉彦	及川 祐太	長瀬 慎太郎	

### ●報告から告知へ～校友会ホームページリニューアルのお知らせ

校友会ホームページが4月25日(平成21年度通常総会開催日)にリニューアルします。

是非ご覧の上、ご意見ご感想をお寄せ下さい。 <http://www.nichidai-ce-koyukai.com>

## 平成21年度 通常総会通知

本会会則第14条により、日本大学工学部校友会平成21年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

### 記

1. 日 時／平成21年4月25日(土)13時より
2. 場 所／日本大学工学部50周年記念館（ハットNE）
3. 議 題／（1）平成20年度会務報告および決算報告  
（2）平成21年度事業計画および予算審議  
（3）その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催

## 第29回 母校を訪ねる会

日 時／平成21年10月25日(日)  
場 所／日本大学工学部50周年記念館  
（ハットNE）を予定  
対 象／第7回卒業生（昭和34年3月卒業）  
第17回卒業生（昭和44年3月卒業）  
第27回卒業生（昭和54年3月卒業）  
第37回卒業生（平成元年3月卒業）

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第59回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

## 校友会報 第72号



発 行 者 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原1  
郵便番号 963-1165  
電話番号 024-944-1327  
FAX番号 024-944-1327  
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp  
URL : http://www.ce.nihon-u.ac.jp/kouyu

発 行 部 数 48,000部  
発 行 日 平成21年3月1日  
発 行 責 任 者 校友会会長 手塚 公敏  
編 集 責 任 者 編集委員長 長澤 幸二